〖食〗を通じた地域の見守り機能強化

妊婦のSOSと早期支援への理解

ボ・ドーム　ダイヤモンドルーム

大阪市妊産婦等生活援助事業
（旧産前・産後母子支援事業）

ボ・ドームダイヤモンド　室長
廣瀬　みどり

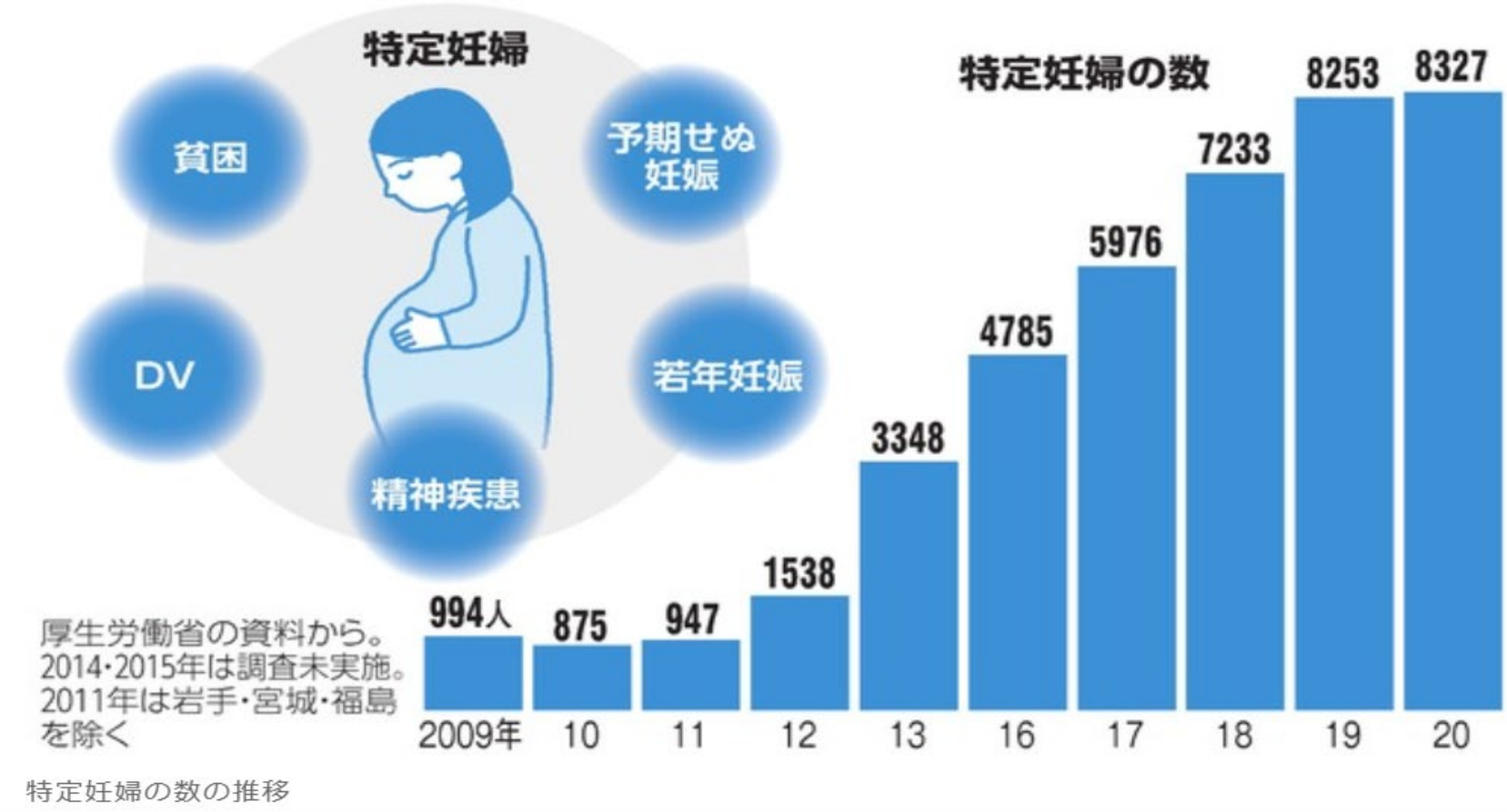
自己紹介

- 1982年に入職
- 2007年から2020年3月　東さくら園（現リアン東さくら）施設長に就任
- 2020年4月関西学院人間福祉学部　社会福祉学科　非常勤講師
- 202０年10月大阪市産前産後母子支援事業「ダイヤモンドルーム」室長として常勤的非常勤勤務
- 2020年4月ひとり親支援団体「ひがさくクリエイト」代表者

こども虐待による死亡事例(第20次報告)

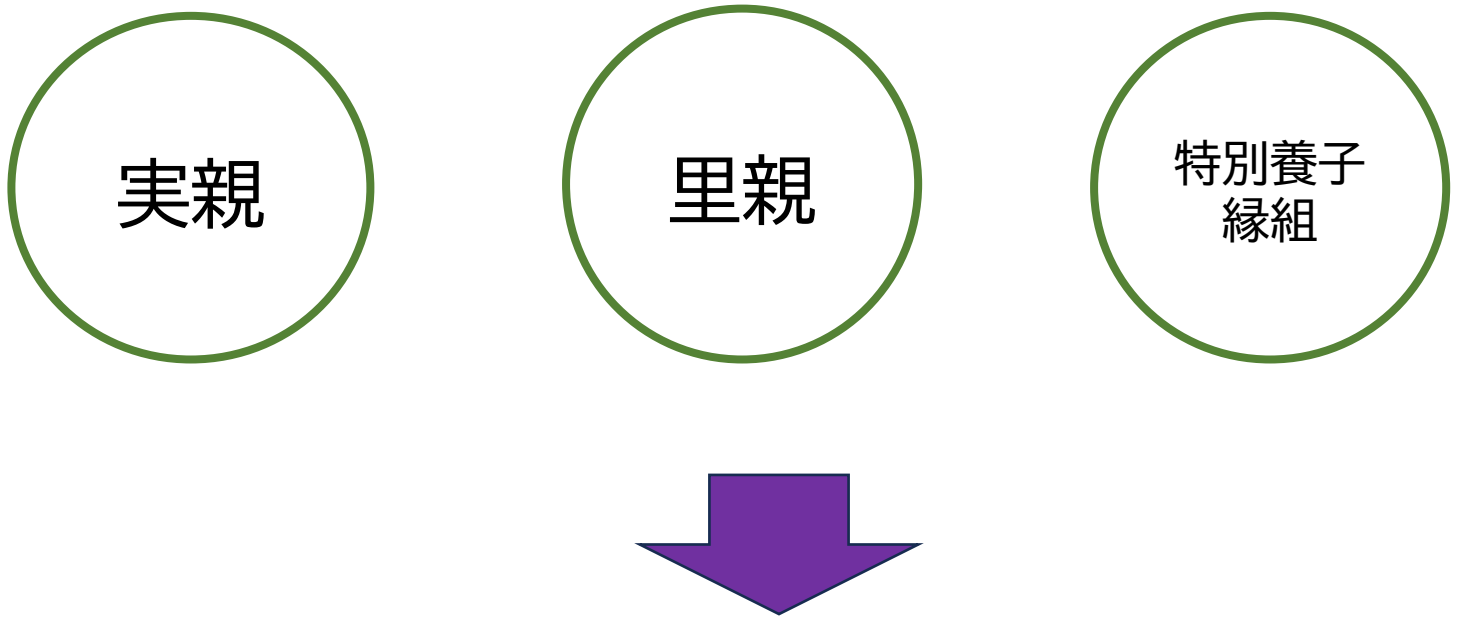
・心中以外の虐待死(56人中)0才で死亡した事例25人
・生後1か月未満の新生児15人
・生後0カ月で死亡した子どもは15人に上り、うち7人には児相や市区町村など関係機関の関与がなかった。
・13人は生後直後に遺棄されて死亡
・実親による遺棄が多い

「特定妊婦」とは？



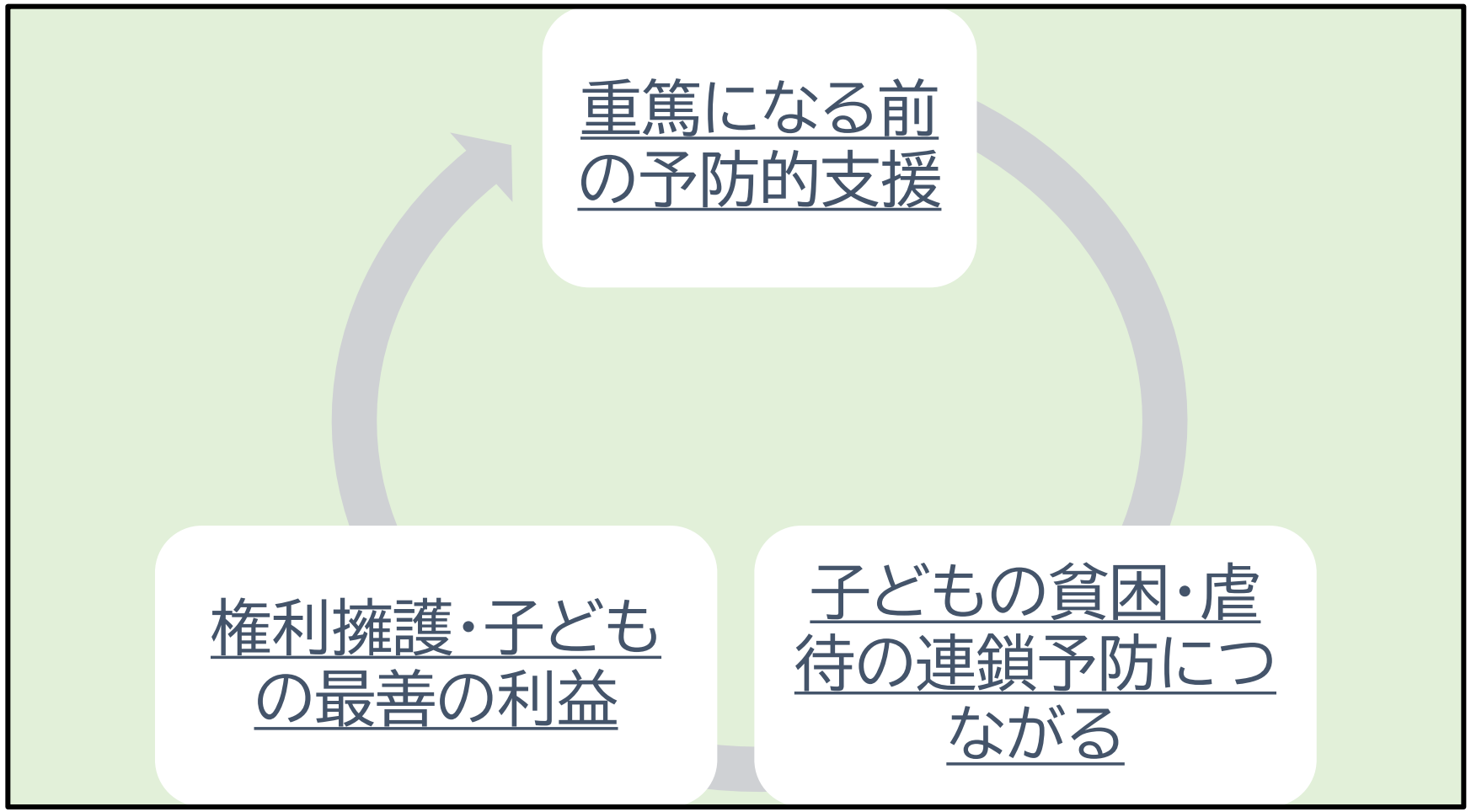
特定妊婦の数の推移

こどもの最善の利益＝家庭養育＝パーマネンシーの保障
虐待予防の出発点



選択できる体制が女性や子を守る
虐待問題で、本当に必要な支援は親を支える、親支援である

地域を基盤とした家族維持機能



ボ・ドーム　ダイヤモンドルーム

大阪市妊産婦等生活援助事業
（旧産前・産後母子支援事業）

開　設：令和2年10月
虐待防止対策の新規取組事業（大阪市業務委託）
受託先：（社福）大念仏寺社会事業団
施設の特徴：乳児院、母子生活支援施設、自立援助ホーム（女子）、保育所を含め、児童福祉施設を複合的に有し、地域を基盤とした実践

ダイヤモンド専属スタッフ6名
・コーディネーター：社会福祉士1名
・医療職：助産師・保健師・看護師3名
・母子支援員　1名
・連絡調整員：社会福祉士1名
・令和7年度から実施
　心理士・弁護士委託

ダイヤモンドルーム利用者の抱えるニーズ
特定妊婦（児童福祉法第6条の2第5項）/元被虐待児

本人の本当のニーズは何か

親代わりの存在の喪失体験
本当は親・家族を求めている
先の見えない不安と恐怖
精神面の不安定
知的障害、精神疾患等

人が苦手
怒られる
嘘をつく➡自分を認めてほしい
何でも言って（支援者側）➡何でも言えないからしんどい

家庭不和

経済的困窮・児童虐待・性的虐待

社会的養護出身者

社会的養護施設で育ち、社会に出て、居場所がなく孤立した生活を送っている等

3F 案内

ダイヤモンドルーム事業内容　2024年10月まで

1．相談支援

〇2020年10月より電話相談開始
　2021年2月よりメール相談開始
　2022年6月ライン自動応答開設

〇初回相談件数
2020年10月～2024年9月　実数681件

性別	**女子86%　男子14%**
年齢	10代25%　20代27%
パートナー無	60%

2．同行支援

〇直接援助に繋がった相談者は、58人

母子生活支援施設	**1名**
未受診病院同行 役所同行・妊娠検査 薬提供・親子間調整	25名
住まいの提供	32名

3．住まいの提供

〇住まいの提供者32人

初産婦	**25名**
経産婦	7名

（2024年10月現在）

①産前産後母子支援の実践から

生きる力になる愛着形成の出発点

出産前からつながることの重要性

妊娠に至るまで背景は過酷なものである。どんな思いだったんだろうか
「孤独感の感情の中味に気づきどう支えるか」
幸せホルモン（オキシトシン）分泌時期、育てたくなる気持ちが生まれる

妊娠期は、身体的にも、精神的にも不安な時期（体調の変化・陣痛・育児など）ケアを通して関係性を築きやすく関係が継続されれば、出産後の子育て支援のサポートが受け入れやすい

「人が変わるチャンス」・援助関係の構築

社会全体で家族を見守るまちづくり
再度の孤立を防ぐ・SOSに気づく地域づくり

- 施設の高機能化を図り、子育て支援拠点機能
  ・ハードとソフトの両面から揃えていく
  ・施設・地域の特徴を活かす

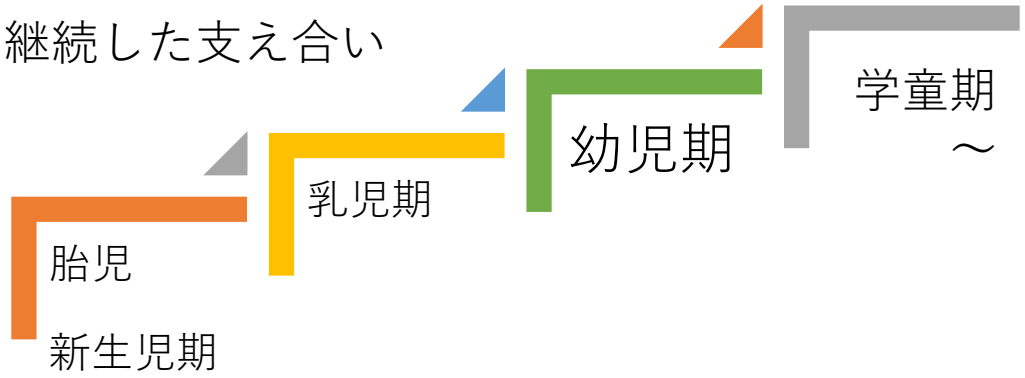
- 事例を通してつながり、重なり続けること（地域包括支援）
  ・団体目線ではなく当事者目線で

（例）地域医療病院（産後ケア事業利用・精神科病院）・地域の子ども食堂の個別支援・若者支援団体
障害支援団体・子どもシェルター・企業就労支援

- フォーマルとインフォーマルのつながり・重なる実践
  ・（例）市町村・児童相談所・社会的養護施設・民生児童委員・学習支援・子どもの居場所・地域支援者

- 広報周知　市とつながり・重なる実践　（例）各会議での事業説明　広報物発送　（公共機関・ネットカ　フェ・学校等）
  ともに考えていく

今後の展望・課題



アフターケアの意味・プロセス

出産➡第二ステージに入る（ここにも寄り添いが必要）自立へ向けてまだまだ続く

（事例）

- 出産後の母子分離を経て母と子の関係性構築にむけた支援事例➡2名
- 母子生活支援施設入所してもつながり続ける事例➡4名
- 地域関係と連携して支援継続事例➡5名　NPO団体・障害包括・子どもサポーター
  産科病院・子育て支援課

・入所中からライン活用➡退所後も継続したつながりになる
・週一回の居場所活動➡地域イベント参加
・同行支援・家庭訪問・食材提供